



海外駐在員現地レポート・サハリン事務所(2021.11)

(件名) サハリン観光フォーラムについて

報告者：主査 得能 淳一郎

11月12日に、サハリン日本センターが主催するサハリン観光フォーラムがユジノサハリンスク市内で開催され、サハリン事務所も参加しました。フォーラムでは、観光ガイドブック「地球の歩き方極東編」の編集者でもある中村正人氏よりサハリンへの日本人観光客誘致について講演がありましたので、その内容を一部ご紹介します。

【ツーリズムのジレンマ】観光マーケティングの現場ではその地域の人々が誇りに思う観光資源「地域の宝」が、必ずしも観光客に評価されないという現実（ツーリズムのジレンマ）がある。まずは「日本人がロシアのどんなところに興味・関心があるのか」を知ること、すなわち相手に即したニーズを知ることが重要。その後、「地域の宝」としての観光資源をPRする段階に至る。

【相手のニーズに即した観光素材】運営する観光情報サイトへの感想・意見から、サハリンにおけるニーズに即した観光素材とは「①ロシアの生活文化」と「②意外性」であることがわかる。

①サハリンの「ロシアの生活文化」で最もわかりやすい観光素材としてはダーチャ、バーニャが挙げられる。日本では自家菜園やキャンプ、サウナ人気が高まっていることから高い関心が寄せられている。

②サハリンの「意外性」は、スキーや鉄道博物館、ジョージア料理レストランが挙げられる。これらの多くはサハリンに対するイメージを一新するものである。

【「地域の宝」としての観光素材】サハリンでの地域の宝としての観光素材は豊かな自然やチェーホフ文学などのロシア文化、さらには日本とのゆかりの場所である。サハリンには各地に灯台が残るとともに、日本統治時代の神社や石碑などが残っている。

私としましては、サハリンには多くの「②意外性」があることを実感しています。サハリンの住民は多様な民族で構成されており、スラブ系、タタール系、韓国系、中央アジア系など街中では様々な人々を見かけます。また、サハリンにはジョージア料理、セルビア料理など北海道ではあまり見かけないレストランもあります。新しい発見をされたい方にはサハリンはお勧めの場所です。今後ともサハリンの魅力を発信していきます。

(件名) ロシア主要地域の行動制限について

報告者：主査 柳田 裕貴

ロシアでは11月中、毎日3万人以上の新規陽性者が発生しました。サハリン州でも毎日90人以上の感染者が発生しており、未だ収束の気配はありません。

このような状況下のため、地域ごとに様々な行動制限があります。特にワクチンを接種したことを証明するQRコードの提示義務については、そもそものワクチン接種率の低さ(50%以下)と相まって、市民生活に混乱をきたしています。12月2日時点の各地の行動制限は次のとおりです。

QRコードの提示義務

	サハリン州	モスクワ市	サンクトペテルブルク市	沿海地方	ハバロフスク地方
交通機関	不要	不要	不要	不要	必須
ホテル	不要	事業者の自主判断	12月27日より必須化	必須	必須
商業施設	不要	事業者の自主判断	12月27日より必須化	必須	必須
飲食店	不要	事業者の自主判断	12月27日より必須化	必須	必須
興行等	必須	必須	必須	必須	必須

サハリン州の映画館などは、観客200人未満であれば提示が免除されます。沿海地方やハバロフスク地方の商業施設では、小規模店や生活必需品の購入の場合は免除されます。地域によって規制が異なりますので、渡航に際しては注意が必要です。